



## エネルギー研究開発拠点化推進会議が開催されました

平成 30 年 5 月 7 日、エネ研において、産業界、電力事業者、大学、研究機関、国、福井県および地元自治体から委員 19 名が出席し、エネルギー研究開発拠点化推進会議が開催されました。

西川知事は、冒頭の挨拶の中で、拠点化計画において中核的な役割が期待されていた「もんじゅ」が廃止措置に移行し、計画全体が大きな転換点を迎えていると述べました。その上で、平成30年度中には、国が新たに整備する試験研究炉に係る検討が深められるとともに、エネルギー基本計画の見直しに加え、敦賀エリアにおいて実施する施策が具体化され、原子力研究・人材育成に関する国の方針が概ね出揃うことから、来年度中に拠点化計画を改定する考えを示しました。

会議では、文部科学省および経済産業省から、「もんじゅ」の廃止措置に伴う試験研究炉や地域振興策などの検討状況について報告があり、これに対し委員から、即効性のある経済対策の実施や、原子力人材育成が極めて重要であり、国がはっきり社会に見える形で支援や情報発信をすべきなどの意見が出されました。

また、各事業主体から平成 30 年度に実施する主な事業について説明があり、エネ研の石塚理事長からは、IAEA と連携した原子力緊急時対応や放射線治療に関するアジアの人材育成研修、理研との連携によるイオンビーム育種研究の推進等について説明を行いました。

結びに、西川知事は、拠点化計画の見直しに向けて、新幹線の敦賀開業を控えるなど嶺南地域のポテンシャルが高くなっていることを挙げ、地域の新たな将来像を描いていく姿勢を示しました。



挨拶を行う西川知事



委員の方々による議論

## 平成30年度 原子力関連業務従事者研修 6月からスタート

エネ研では、エネルギー研究開発拠点化計画（「人材の育成・交流」）の一環として、平成 17 年度から「原子力関連業務従事者研修」を実施しており、平成 29 年度までに約 8,000 名の方々に受講いただいています。

今年度はこれまでの一般研修・専門研修に加え、受講者のニーズに合わせて新たに「消防設備士（1 類）（4 類）（6 類）」の資格取得を目指す方を対象とした専門研修を開催します。また、昨年度から始めた「廃止措置専門講座」では、今年 6 月に日本原子力研究開発機構が敦賀市に開設予定の「廃止措置技術実証試験センター（ふくいスマートデコミッション技術実証拠点）」を利用した体験型学習も取り入れ、廃止措置の工事計画から現場作業管理までの実務的な知識・技術を習得できます。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、全ての講座はテキスト代も含めて無料です。研修内容の詳細はエネ研のホームページ（<http://www.werc.or.jp/>）をご覧ください。

平成30年度 福井県長谷事業  
原子力関連業務従事者研修  
6月から研修スタート!!  
未来を拓く力のために、  
1.一般研修  
2.専門研修  
参加無料（テキスト代別）  
公益財団法人 若狭湾エネルギー研究センター  
福井県嶺南原子力人材育成センター

## イオンビーム育種によりオレガノの新品種を開発しました

エネ研は、ハクサンインターナショナル(株)、プランツファーム SETO と共同で、オレガノの新品種「せと福 LGV」を開発し、品種登録出願しました。

オレガノは、地中海沿岸原産のシソ科の多年草で、トマトに合うハーブとして利用されるほか、明るい葉色や薄ピンクの花が観賞用に使われています。古代ギリシャでは幸福のシンボルとされていました。

今回開発したオレガノは、炭素イオンビームを照射した穂木（接ぎ木に使う枝）から、枝変わりとして選抜、固定しました。この品種は、グリーンの葉の縁にライトグリーンの斑が入っており、気温が低くなると葉が斑の部分からだんだんと赤く色づくことが特徴です。

この品種は、「オレガノ マルゲリータ」という商品名で現在全国の園芸店で販売しています。ぜひ一度手に取ってご覧ください。また、園芸関係の通販サイトでも販売されています。



オレガノの通常品種



新品種 せと福 LGV



せと福 LGV の花



せと福 LGV の紅葉した葉

## 原子力安全のリーダーシップに関する講師育成研修を実施しました

平成 30 年 4 月 16 日から 20 日にかけて、国際原子力機関（IAEA）、福井県およびエネ研の共催で、「原子力安全のリーダーシップに関する ANSN（アジア原子力安全ネットワーク）講師育成研修」を開催しました。

この研修は、IAEA と協力して、アジアを中心とする世界の原子力安全に関わる講師人材の育成に貢献するとともに、有効な人的ネットワークを形成することを目的に実施しています。5 回目となる今回は、アジアの 7 か国（バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、韓国）から原子力規制当局や研究機関に所属する 15 名が参加しました。

福島第一原子力発電所事故から得られた教訓として、原子力安全のためのリーダーシップが重要であるとの観点から、IAEA の専門家による体系的な講義が行われました。また、国内の専門家による講義や討論が行われたほか、研修生が各国の状況についてプレゼンテーションを行いました。さらに、研修生は、日本原子力発電(株)敦賀発電所、美浜原子力防災センターおよび県原子力環境監視センターの見学を通して、福井県内における安全への取組状況について学びました。

研修生からは、「事故後の日本や福井県での原子力安全への取組みを日本の専門家から直接学ぶことができ、予想以上に有益だった。」等の声が聞かれました。



開講式



IAEA の専門家による講義



敦賀発電所見学

本誌を読まれてのご感想、ご意見を下記担当あてお寄せください。また、エネ研では、福井県内の企業を訪問し、研究ニーズとシーズのマッチングを行っております。訪問をご希望の方も、下記担当までどうぞ。

郵 便：〒914-0192 福井県敦賀市長谷 64-52-1

公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター エネ研ニュース担当 あて

E-mail : kikakushien@werc.or.jp TEL : 0770-24-7270 FAX : 0770-24-7275

